

# 京都芸術 センター 通信

KYOTO ART CENTER  
NEWSLETTER

June 2018  
Vol.217

発行 | 京都芸術センター  
2018年5月20日

# 06

## TOPIC 01

KAC Performing Arts Program 2018 / Contemporary Theater

# Re-search & Re-direction: かかわりの技法

近年の演劇では、リサーチやフィールドワークなど、ある場や状況にかかわり「調べること」が、ますます重要視されています。このようなリサーチ過程において、対象との関係の変化に応じて、作家自身の考えが変化する場合や、状況を省みて表現手法の再考を迫られる場合もあります。本プログラム「Re-search & Re-direction: かかわりの技法」では、こうした特定の状況に関する演劇の技法に注目し、リサーチと、その創作がどのように相互に影響しあうのかを、演劇ユニットBRDGとともに考察します。年間を通して定期的な議論を行い、2019年2月末の報告会において、リサーチから育まれたものを紹介します。

演劇ユニットBRDGは、他国からの移住者や海外ルーツを持つ住者など、京都の「ローカルな国際性」についての地道なリサーチを行い創作しています。これまで聞き取りやインタビューから作品を構築してきた彼女らですが、日本語での聞き取りが難しい相手について、どのようにその声を聞くことができるか再考を迫られ、新たなワークショップの創作を試みています。このような演劇技法の発展は、いまや第三者的に舞台を観るためだけのものではなく、より直接的に実生活の場やコミュニティと関係を結ぶために運用されるようになっていくとも考えることができるでしょう。

またこれに先駆けて、リサーチと影響しあい、創作の技法が変化することについて、実例をもとにしたシンポジウムと、2団体による関連上演を行います。

かもめマシンの『俺が代』は、日本国憲法を上演テ

キストとして扱います。「国民は」という主語で書かれるこの文章は、わたしたちの生活の地盤であるにも関わらず、どこか自分のものと思いつらい文体を持っています。これを俳優が語りなおそうとする、その実直ゆえ滑稽にすら見える演技は、憲法へ向き合うことの難しさや本質的な問題を、政治的文脈にとらわれず等身大で共有しようとする行為です。

小嶋一郎らによる250km圏内は『地震の話』『暴想』という短い2作品を上演し、「感想をシェアするミニフォーラム」を行います。彼らの演劇は、俳優の上演という一方的な発信で完結するものではなく、観客からも言葉が発信される場を志向しています。

これらの上演においては、リサーチは必ずしも自身の外側を対象を求めるのではなく、個人で解決できない自分たちの問題に着目しており、これを基に作者と俳優、観客の関係を再構築しようとしていることに気がきます。シンポジウムではこれらの例などから、リサーチから見出された感覚や問題から人とのかかわりを編みなおす演劇の技法について議論していきます。こうした状況の手触りを根拠に発展する演劇は、新たな「かかわりの技法」の提案として、社会の中で重要な役割を担おうとしているのかもしれない。

演劇の技術は、自分ではないなにかに「代わる」ことから、「かかわる」ことに応用されようとしています。いや、もともとは逆だったのかも？

谷竜一(アートコーディネーター)

### Profile

#### BRDG

山口恵子と川那辺香乃が2011年に結成。山口は近年「ローカルな国際性」をテーマに、インタビューから演劇作品を創作している。主な作品として「117-one one seven」、「ヒキダシ ホテル」。2016年には「117-one one seven」のイギリス公演(再演)を行う。川那辺は京丹波町質美を拠点とした「423(しつみ)アートプロジェクト」を2013年より始め、子どもを対象としたワークショップなどを行う。また、共同作品として旧質美小学校を題材とした「とちのこゑ」(2016)がある。ちなみに「BRDG」を山口は「ピーアールディージャー」とよび、川那辺は「ブリッジ」とよんでいる。

#### かもめマシン

2007年より東京都を中心に活動。カンパニー名はチェーホフの「かもめ」とハイナー・ミュラーの「ハムレットマシン」に由来す

る。個人的な身体と社会との関わりにフォーカスを当てた作品を上演することを特徴とし、気功や太極拳などの身体メソッドを応用しながら独自の身体を模索している。

#### 250km圏内

2013年に演出家の小嶋一郎と女優の黒田真史が立ち上げた劇団。2人とも座・高円寺「劇場創造アカデミー」修了(1期生)。2015年からアトリエ劇研「創造サポートカンパニー」。「コミュニティのあり方の理想形」を舞台上で表す(how)作品を上演することを特徴とする。同時に、観劇文化をつくる活動を各地で行っています。演出の小嶋一郎は『日本国憲法』で京都芸術センター舞台芸術賞2009大賞受賞。F/T10 公募プログラム参加。

### KAC Performing Arts Program 2018 / Contemporary Theater Re-search & Re-direction: かかわりの技法

#### シンポジウム「しらべの演技、演出のしらべ」

日時：7月1日(日)16:00-20:00 ※入場無料・要事前予約

会場：講堂

登壇：山口恵子、川那辺香乃(BRDG)、小嶋一郎(250km圏内)、萩原雄太(かもめマシン)、石神夏季(ペピン結構設計)、久保田テツ(NPO remof「記録と表現とメディアのための組織」)

定員：100名

#### 【関連上演】

##### かもめマシン『俺が代』

日時：6月30日(土)19:00開演

演出：萩原雄太 出演：清水穂奈美

#### 250km圏内『地震の話』『暴想』

日時：7月1日(日)14:00開演

『地震の話』

作・演出・出演：黒田真史 協同演出：小嶋一郎

『暴想』

作・演出・出演：北野千晴 協同演出：小嶋一郎

※上演終了後に感想をシェアするミニフォーラムを開催します。

会場：フリースペース

料金：一般前売¥2,000/当日¥2,500

2演目セット券¥3,000

18歳以下¥500(前売・当日共)

定員：各60名

※イベント情報(P2)もご覧ください

# EVENTS

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

**各種イベント申込方法**（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）  
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申込ください。チケット窓口でも受け付けます。

※**㊦**印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です（制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外）その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください  
※各種年齢別・学生料金は要証明書示す

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

## 美術

『**ニューミュージーション-変・進・深化**』展  
関西の芸大・美大を卒業/在籍し、精力的に活躍する若手アーティストによるグループ展。  
会期：4月14日(土)–5月27日(日)  
10:00–20:00

※会期中無休・入場無料

会場：ギャラリー北・南

出展：加藤巧、西條茜、高畑紗依

【**関連企画**】  
**クロージング・イベント**  
「**ルッペルトの頭の中身**」  
西條茜の出展作の一部である巨大な脳に見立てた立体作品の解体を試みます。  
日時：5月27日(日)17:00  
会場：ギャラリー北  
※入場無料、事前申込不要

▼ **Tips**展

Co-program カテゴリーB(展覧会事業)採択企画。  
インスタレーションにおけるささやかな技術「Tips」に注目したグループ展。  
会期：6月1日(金)–7月16日(月・祝)  
10:00–20:00

※7月14日(土)–16日(月・祝)は祇園祭のため17:00に閉館いたします

※入場無料

会場：ギャラリー北・南

出展：池田剛介、熊谷卓哉、小松千倫、三野新、宮坂直樹

【**関連企画**】

**アーティストトーク**  
日時：6月2日(土)15:00–17:00  
会場：ミーティングルーム2  
ゲスト：長谷川新(インディペンデント・キュレーター)

**パフォーマンス『Prepared for FILM』**  
日時：6月3日(日)15:00–16:00  
会場：ギャラリー北  
出演：三野新

**レクチャー**  
日時：6月23日(土)16:00–18:00  
会場：ミーティングルーム2  
講師：高濱史子(建築家)

※入場無料・事前申込不要

※Topic02(P4)もご覧ください

主催：宮坂直樹、京都芸術センター

## 伝統

**京都いけばなプレゼンテーション2018**  
〈**すごいぞ! いけばな**〉  
華道34流派の華道家によるフェスティバル。詳細はウェブサイトをご覧ください。  
日時：6月2日(土)10:00–20:00  
3日(日)10:00–18:00  
会場：講堂、大広間、フリースペースほか  
※入場無料・事前申込不要  
主催：京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会

**伝統芸能文化創生プロジェクト**  
「**伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム**」に係る説明会  
本プログラムの趣旨についての説明と、応募を検討している方を対象とした相談や申請書の書き方等についてアドバイスをします。  
日時：[東京]6月10日(日)  
[京都]6月17日(日)  
受付 14:30–15:00(東京・京都共)  
プログラム説明 15:00–16:00  
個別相談会 16:00–17:00  
会場：[東京]東京文化財研究所(東京都台東区)  
[京都]京都芸術センター ミーティングルーム2  
参加申込：[東京]6月5日(火)、[京都]6月12日(火)までに、メール又は電話で予約してください。また、個別相談を希望される方は、その旨をご連絡ください。

主催・問合せ：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)  
TEL：075-255-9600  
E-mail：taro@kac.or.jp  
共催(東京のみ)：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

## 音楽

主催・問合せ：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)  
TEL：075-255-9600  
E-mail：taro@kac.or.jp  
共催(東京のみ)：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

## 音楽

**第37回ベトロフピアノ・コンサート**  
『**ピアノ来校100年記念 音楽の花束**』  
1918年に明倫小学校開校50周年記念として寄贈されたピアノ(ベトロフ社製)を使用するコンサート。100年の時を経て受け継がれる暖かな音色をお楽しみください。  
日時：6月29日(金)開場18:30 開演19:00  
会場：講堂  
出演：大井千世(ピアノ)  
プログラム：ショパン「舟歌」、ドビュッシー「月の光」、リスト「ラ・カンパネラ」ほか  
料金：1,000円  
主催：明倫ベトロフの会、京都芸術センター

## 演劇

**武田力「日常との憑依**  
—振る舞いに隠された「わたしたち」—」**リサーチ&ワークショップ**  
Co-program カテゴリーC(共同実験)採択企画。演出家・武田力と京都芸術センターが共同で、日常での「振る舞い」を現代における「民俗芸能」と仮定し、それを演じ直すことで社会を見つめるリサーチプログラムを実施。一緒にリサーチしていただける方を募集します。第一弾として、武田がプログラム内容を紹介し、京都の街々での振る舞いを探すワークショップを行います。リサーチの継続は任意です。まずはお気軽にご参加ください。  
日時：6月9日(土)13:00–15:00  
会場：和室「明倫」  
料金：無料  
定員：10名(要事前申込)  
※動きやすい服装でお越しください

**KAC Performing Arts Program 2018 / Contemporary Theater**  
「**Re-search & Re-direction：かかわりの技法**」  
リサーチやフィールドワークを経て変容する演劇の手法と状況のかかわりについて、年間を通し考察していきます。

**シンポジウム「しらべの演技、演出のしらべ」**  
リサーチやコミュニティとの関わりを経て、上演方法がいかに変容するのか、演劇創作の手法について関連上演や実例の紹介をもとに議論します。  
日時：7月1日(日)16:00–19:30  
会場：講堂  
登壇：山口恵子(BRDG)、川那辺香乃(BRDG)、小嶋一郎(250km圏内)、萩原雄太(かもめマシーン)、石神夏希(ペピン結構設計)、久保田テツ(NPO remo「記録と表現とメディアのための組織」)  
定員：100名  
※入場無料・要事前申込

【**関連上演**】  
**かもめマシーン「俺が代」****㊦**  
俺に、俺が語る、俺の日本国憲法。演技の力を運用し、条文と身体の間隔を測りなおします。  
日時：6月30日(土)開演19:00  
会場：フリースペース  
**250km圏内「地震の話」****㊦****「暴想」****㊦**  
生活の範囲から耳をすます、災害のこと、地域のこと、政治のこと。短編2本の連続上演と、上演を経て観客とともに言論の場を共有します。  
日時：7月1日(日)開演14:00  
会場：フリースペース  
料金：前売2,000円／当日2,500円  
2演目セット券3,000円  
18歳以下500円(前売・当日共)  
定員：各60名  
※Topic01(P1)もご覧ください

主催・問合せ：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)  
TEL：075-255-9600  
E-mail：taro@kac.or.jp  
共催(東京のみ)：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

## 明倫ワークショップ

京都芸術センター制作室で創作活動を行うアーティストによるワークショップ。(参加無料)

**きたまり**  
「**きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会**」  
日時：6月1日(金)19:00–21:00  
会場：制作室3  
定員：4名  
対象：ダンス経験者  
※動きやすい服装でお越しください

**正直者の会「声に出して読んでみる(古事記編)」**  
日時：6月23日(土)14:00–17:00  
会場：制作室3  
定員：20名

**ベビー・ピー**  
「**『山ぐるみ人形劇』をやってみよう!**」  
美術作家、山さきあさ彦氏製作のぬいぐるみ・通称「山ぐるみ」を使った人形劇のワークショップ。変てこな人形を動かしながら、「劇」や「物語」と「人形」と「役者」の関係を考えます。  
日時：6月30日(土)14:00–16:00  
会場：制作室3  
定員：10名  
※動きやすい服装でお越しください

## KACセレクション

**ナチュラ・クラシク**  
**N///K『風と毛穴 器官と音』****㊦**  
ダンスカンパニーN///K初の京都公演。毛穴／皮膚を観客の窓口として、猛烈に生きる身体部位の声と音を空間に描く。  
日時：6月9日(土)15:00／19:00  
10日(日)14:00  
会場：フリースペース  
出演：奥野美和、小山衣美、鈴木春香、ながやこうた、松尾望  
料金：一般前売2,800円／当日3,000円  
学生前売2,300円／当日2,500円

【**関連企画**】  
**奥野美和による「解：体ワークショップ」**  
独自のダンスメソッド「自由になるための解体された身体」を体験。  
日時：6月7日(木)  
〈昼の部〉14:00–17:00  
〈夜の部〉18:30–21:30  
会場：フリースペース  
料金：各回2,500円  
定員：各回20名(先着順/要事前申込)  
主催・申込・問合せ：N///K  
E-mail：nk.info.jp@gmail.com

## 制作支援事業

**トランク企画『アラカルト』**  
あなたのオーダーから、特別な一品(即興芝居)を、素敵な音楽とともに演出します。  
日時：6月5日(火)開演19:30  
会場：UrBANGUILD(中京区)  
料金：一般前売2,000円／当日2,300円 +1drink  
学生1,500円+1drink(前売・当日共)  
問合せ：トランク企画  
TEL：090-5964-2210  
E-mail：trunkkikaku@yahoo.co.jp

**セレノグラフィカ**  
『**とこしえに～ARKASで～**』  
結成20周年記念作品『とこしえに』をアルカス SASEBO版として新たにリメイクしお届けします。  
日時：6月15日(金)開場18:30 開演19:00  
会場：アルカスSASEBO イベントホール(長崎県佐世保市)  
料金：一般2,000円／25才以下500円  
問合せ：アルカスSASEBO(第2・4水曜日休館)  
TEL：0956-42-1111  
E-mail：info@arkas.or.jp

**木ノ下歌舞伎『娘道成寺』**  
きたまり振付出演、木ノ下歌舞伎『娘道成寺』  
待望の再演。  
日時：6月15日(金)19:00  
16日(土)16:00  
17日(日)16:00  
会場：まつもと市民芸術館小ホール(長野県松本市)  
料金：一般3,500円／U25 2,500円  
問合せ：まつもと市民芸術館  
TEL：0263-33-3800  
WEB：http://mpac.jp

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

**祝・第250回記念 市民狂言会**  
日時：6月8日(金)開場18:30 開演19:00  
会場：京都観世会館(左京区)  
演目：三番三、福の神、飛越、釣針  
出演：茂山千作、七五三、あきら、千三郎、千五郎、宗彦、茂、逸平、童司、忠三郎 ほか  
料金：前売2,500円／当日3,000円  
チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、高島屋京都店、チケットびあ(Pコード：484-648)  
※団体券2,200円(20名以上)は京都芸術センターにて取扱  
主催：京都市

**みみきぎプログラム****㊦**  
**#1 明倫レコード倶楽部**  
「**喜怒哀楽のレコードの旅**」  
日時：  
[其ノ66]怒の会  
9月1日(土)15:00開演 14:30開場  
[其ノ67]哀の会  
12月1日(土)15:00開演 14:30開場  
[其ノ68]楽の会  
2019年3月2日(土)  
14:00開演 13:30開場  
料金：500円(1ドリンク付)  
講師：いしいしんじ(作家)

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および㊦印の共催事業・制作支援事業

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

## OPEN CALL 募集

**アーティスト・イン・レジデンスプログラム2019**  
**ビジュアル・アーツ部門募集**  
京都芸術センターで滞在制作を行うアーティスト・イン・レジデンスプログラム。2019年度はビジュアル・アーツ分野から募集します。  
滞在期間：2019年4月1日(月)–2020年3月31日(火)(3ヶ月以内)  
応募資格：  
・ビジュアル・アーツ分野の新進芸術家  
または研究者で、京都に滞在し制作・調査研究などを行う理由が明確な方。  
国籍不問。  
支援内容：  
・滞在期間中(3ヶ月以内)の宿泊場所の提供  
・制作場所の提供  
・居住地から関西国際空港または大阪国際空港までの往復航空券  
・制作費として1件につき(個人・グループ問わず)10万円(内税)の補助  
・広報協力  
・アートコーディネーターによるサポート  
締切：6月30日(土)(必着)

**夏休み芸術体験教室参加者募集**  
小中学生や高校生が芸術に触れる教室の参加者を募集します。  
日時：  
①邦楽(箏・尺八)：7月22日(日)、28日(土)、29日(日)、8月4日(土)、5日(日)(計5回) ※8月11日(土・祝)に発表  
※楽器、箏の爪は貸しだします  
②邦舞：7月28日(土)、29日(日)、8月4日(土)、5日(日)(計4回)  
※8月11日(土・祝)に発表(8月10日(金)にリハーサル)  
※浴衣・足袋をご持参ください  
③能楽1(仕舞)：7月24日(火)、25日(水)、26日(木)、31日(火)、8月1日(水)(計5回) ※8月2日(木)に発表会  
④能楽2(笛・小鼓・太鼓・太鼓)：7月24日(火)、25日(水)、26日(木)、31日(火)、8月1日(水)(計5回)  
※8月2日(木)に大江能楽堂で発表会  
いずれの教室も時間は10:30–12:00

**京都フィロムジカ管弦楽団**  
『**第43回定期演奏会**』  
めったに聞くことができない別宮貞雄とヨアヒム・ラフの作品をお楽しみください!  
日時：6月24日(日)開場13:00 開演14:00  
会場：長岡京記念文化会館(京都府長岡京市)  
料金：前売800円／当日900円  
問合せ：京都フィロムジカ管弦楽団  
TEL：070-6506-4032  
E-mail：ticket@kyotophilo.com

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

**#2 素謡の会「うたいろあはせ」**  
**第2回**  
日時：12月18日(火)  
受付開始18:00 開場18:30 開演19:00  
演目：〈観世流〉経正、〈金春流〉花月  
出演：林宗一郎、田茂井廣道、高橋忍、山井綱雄、白坂信行  
料金：前売1,500円／当日1,800円  
**関連企画「謡曲ひとめぐり」**  
日時：9月15日(土)  
会場：長講堂(下京区富小路六条)  
演目：仏原  
出演：河村晴道、味方玄、田茂井廣道、曾和鼓堂  
料金：前売1,500円／当日1,800円  
定員：30名

※みみきぎプログラム共通の半券割引があります

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

▼ **2025年** **10月** **14日** **（土）** **17時** **00分** **～** **20時** **00分**

## 募集対象：

募集対象：  
①小学4年生～高校3年生  
②③④小学1年生～中学3年生(ただし④年は小学4年生以上)  
会場：京都芸術センター ※能楽1・2のみ発表 大江能楽堂  
料金：無料  
定員：邦楽–各20名・邦舞–20名・能楽1–25名・能楽2–各12名  
申込方法：ウェブサイト又は往復はがきに希望の教室・住所・氏名・ふりがな・学校名・学年・電話番号・保護者名を記入の上、京都芸術センター「夏休み芸術体験教室」担当まで。  
※①、④は希望楽器を第2希望まで、②は身長を必ず記入すること。なお、全日程参加できる方に限ります。応募多数の場合は抽選  
締切：7月4日(水)(必着)

**伝統芸能文化創生プロジェクト**  
「**伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム**」  
伝統芸能文化(古典芸能、民俗芸能、およびそれらに係る楽器・用具用品、材料や伝統工芸技術等)において支援を必要とするプログラムを公募します。採択された取り組みについては、伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィスと共同で実施します。  
募集する事業：  
①伝統芸能文化の保存、継承、普及、活用のために必要な取組  
②継承に関して緊急性・必要性が高く、関係機関の協力が必要な取組  
対象者：研究者及びコーディネーター、実演家、職人、地域の文化を保存する方々など  
締切：7月10日(火)17時(必着)  
※共同プログラムとして実施する金額の上限額は、1件当たり100万円/年です。  
※詳しくは募集案内又はウェブサイト[www.traditional-arts.org/]をご覧ください。説明会については左イベント欄をご覧ください。  
主催・問合せ：伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス(京都市、京都芸術センター)  
TEL：075-255-9600  
E-mail：taro@kac.or.jp

# REVIEW

美術

## 人間がいなくなった後で

雁木聡

『inner space colony』  
4月21日(土)–5月6日(日)  
ARTZONE(京都市中京区)

身の回りの親しい人びと、たとえば家族や友人が突如怪異のものに変貌してしまう物語は、現在まで少なからず存在し続けてきた。親密な環境で見知らぬ姿が露呈されることに、人は半ば恐怖を覚えつつも魅了されるためであろう。本展を構成する品川美香と檜皮一彦の作品は、そうした物語の系譜に連なりながら、変奏を加えるものとして位置付けられる。すなわち、各人が密接に関わる外的環境との関係を、作品制作を通じて別様の仕方で切り結び、それらの「見知らぬ姿」を暴き出すのである。本展で鑑賞者を迎えるのは、品川による油彩とアクリルを用いた絵画作品群である。なかでも際立った印象を与える『Mirror, Mirror』では、幾分か図案化された花とミツバチのモチーフを背景に、鏡像のように並ぶ、2人の巨大な幼児の頭部が描かれている。作者の言によれば、本作品のモデルは、いずれも作者自身にとって馴染み深い実在の子どものたちだという。しかし、のっぺりとした青白い肌と、深みのある青に閃光が走る瞳、そして赤みがかった金色の頭髪は、アンドロイドか宇宙人の姿形を想起させる。あるいはまた、彼ら／彼女らは、異世界とこの世を媒介する超越的な幼童なのだろうか。いずれにせよ、造形的なりアルさの中に、人ならざるものとしての存在感が充溢していたことは確かである。

もう一人の作家である檜皮は、品川の構築する静的

関西圏の公演・展覧会について、  
若手レビューアが月替りで執筆します。

な空間とは対照的に、感覚的な過剰さに満ちたインスタレーションを展開する。『hiwadrome : type zero』と題された出展作では、暗く、大音量の音楽が流れ続けるクラブのような部屋の中央に、車椅子の車輪がうず高く積み上げられている。その隙間には照明器具やスピーカーが多数配置され、それぞれに脈絡なくうごめき、周囲に音と光を振りまいている。あたたか、無数の生命体が身を寄せ合って暮らすコロニーであるかのよう。そして壁面には、檜皮自身のパフォーマンスを取めた映像が流れる。そこでは四肢に障害を持つ作者がさまざまな動きを試みており、ドラッグクイーンの衣装を着た人物に踏みつけられるなど、マゾヒスティックな修行者の様相も呈している。こうした生身の身体をさらす映像と、普段はその身体を支えるものでありながら、主人を失った車輪たち。この両者の相互作用が、人間の不在を強く意識させるとともに、逆説的に生々しさの獲得を可能にしていた。

こうした2人の作品を表面的に捉えるならば、全くもって相容れない表現形態にも見えるだろう。しかしながら、両者に通底する傾向はたしかに看取される。それは、いわば人間がいなくなった後の世界を鑑賞者に夢想させることである。懐かしさと、見慣れぬ不気味さとが不安定に両立するその場所は、実は我々の日常からそれほど遠くないことを、本展は示し続けているようであった。

かりき さとし / 高等学校教員 ● 昨夏にARTZONEにて開催したPart-time Suite 個展のドキュメントが、ようやく完成を迎えそうです。機会がありましたら、ぜひお手にとってご覧下さい。



撮影：檜皮一彦

演劇

## 人と形のあわいに想う

岡田落子

ITOプロジェクト『高丘親王航海記』  
4月20日(金)–22日(日)  
AI・HALL(兵庫県伊丹市)

ITOプロジェクトが少年王者館の天野天街を脚本・演出に迎えた糸あやつり人形芝居『高丘親王航海記』が上演された。同プロジェクトは2001年関西の糸あやつり劇団有志で結成された団体で、一員の山田俊彦(人形劇団ココ)が王者館の熱心な観客であったためにタッグに至った。人形劇史の革命的な作品と語られる第一弾『平太郎化物日記』(2004)に続く本公演は、企画開始から3年かけて実演の運びとなった大作である。原作は澁澤龍彦の遺作、幻想冒険譚『高丘親王航海記』だが、この作品に天野は因縁を持つ。1992年、天野率いる王者館は維新派と組み、同題材で名古屋白川公園にて壮大な野外劇を上演した。その折親王を演じた維新派主宰松本雄吉は2016年に惜しまれつつ急逝したが、今回親王人形の顔は松本をモデルに作られたと聞く。多くの人の想いを寄せ、人形たちは動き出す。

劇は部分的な変更はあるが、原作にほぼ忠実に展開する。西暦865年、67歳の高丘親王は、幼少期に父の寵姫から聞き、夢見た天竺へ、僧侶安展と秋丸少年を供に向かう。その途中でジゴゴンや猿、貴重な薬になる蜜人など、様々な不思議な生物に出会う。やがて死期を悟った親王は虎の胃に収まりつつさらに天竺を目指す。

舞台の見所は、鬼才澁澤の脳内の幻想的生物が具象化された面白さである。鈴付きの局部が動く犬や頭部に乳が連なる蜜人、シャボン玉の糞をするジゴゴンなど、猥雑さと滑稽さを併せ持つ人形が山と登場し自在に動く。例えば唇と尻が繋がる肉感的形態の花弁が大量に登場する場面では、尻を唇が噛む形で連



ITOプロジェクト

結が始まり、巨大な円環の花となり回転しつつ上昇する。最前列の筆者からは操者の微細な手の動きが糸を伝わり大きく人形を動かす様子がよく見えた。アフタートークで判ったのだが糸は非常に絡みやすく、この花も糸が絡まれば修正に2時間以上かかり、東京公演では開演に間に合わないことがあったという。糸あやつりの精緻な妙技に感嘆した。

屈託無く荒唐無稽な舞台だが、始まりと終わりは物哀しい。開幕、低く吹き荒ぶ風の音の中、老人の人形が横たわっている。客席の照明が落ち「ミーコー」と老人を呼ぶ声と共に、天から糸が降下する。手に足に糸が装着されていき、小さな光の中に高丘親王が立ち上がる。魂っぽい儀式を連想させられ、死の気配が漂った。また終幕、親王が舞台から去った後、ゆっくり「終」の文字模型が舞台奥から出てくる。模型は「ミーコー」と「糸」の字に分解され、劇冒頭と同様の呼び声が鳴り響く。人形即ち肉体が消えた後に、呼ぶ文字と声だけが残り、その寂寥。

人の死後、肉体に無限に詰まっていたはずの想念はどこに消えるのだろうか。澁澤や松本の思念はいずこへ。自らは消え、ただ他者が自分を呼ぶ声とその文字だけが残り終幕は、生の虚無と孤独を表現し続ける王者館流に天野が味つけをした、寂しい、寂しい終わりである。蘇る魂に出会いに、また明日、劇場へ行きたくなった。

(4月21日19:00の回を観劇)

おかだ ふきこ / 大阪大学演劇学研究室助教 ● 本号よりこの欄を3ヶ月に1度担当いたします。専門は近現代日本演劇史(特に所謂アンクラ付近)です。稀に小劇場の受付にも居ます。先日セルビア音楽研究者に頂いたターボフォークのCDにはまっています。よろしく願いたします。

音楽

## 去来するさりぎわ

野口卓海

『スガダイロー ソロピアノ・アルバム発売記念ツアー』  
4月8日(日)  
Live Spot RAG(京都市中京区)

スガダイローは、ジャズピアニストの巨匠・山下洋輔の元でピアノを学んだ、当代きってのフリージャズピアニストだ。高い演奏技術で楽器そのものと格闘するようなスタイルが特徴的で、「一晩弾くと調律が狂う」なんて逸話さえある。ジャズという音楽が歴史的に培ってきた越境

精神を表現するようなスタンスにも、私は以前より心惹かれていた。向井秀徳や中村達也、ジェイソン・モランなど国やジャンルを越えた同時代的な音楽家はもちろん、田中泯、鉛屋法水、contact Gonzoのような他分野の表現者とも彼はこれまでに即興の対決を幾度となく重ねてきた。ピンと張り詰めた一本の線上でギリギリの臨界点を探るようなそれらの対決は、まさに先に触れた越境精神の露露だ。今回私が取り上げるスガダイローのソロ公演は、新作発表に伴う全国ツアーの京都場所である。会場へ向かう道すがら、高瀬川沿いには早々に散った桜。「今年はやかったね」と口々に言い合い、みなみな懐かしんでいる気配さえあった四月初旬。しかし本当に「桜」は散ったのか?と私は考えていた。ソメイヨシノや枝垂れ桜は確かに散ったが、まだ咲く前の桜もあるのには?

そう、七分咲き手前だった八重桜たちの存在は黙殺されて、確かに「桜」は散ったのだ。最も鮮烈で決定的な一瞬にのみ、大文字の言葉や名は与えられる。ソメイヨシノが散った夜にこそ「桜」自体が終わらなければならない。すぐさま移ろう万事に言葉で釘を刺し、私たちは抵

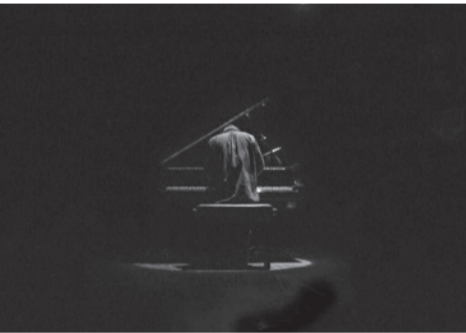
抗しているのかもしれない。

そんなことを考えながら到着した会場は、言葉が一切追いつかないような怒涛の移ろいが充満していた。そもそもとして、スガダイローが長い時間をかけて扱ってきた“音”という現象こそが、すぐさま過ぎ去っていく性質そのものと言える。“音”こそひとつとどこに止まってはくれない。一年をかけ一月毎に一曲ずつ作曲するというコンセプトの新作『季節はただ流れて行く』は、あたかも上述した移ろいへの抵抗のように見えるかもしれないが、アルバムに収録された12曲はそれぞれに最大公約数的な各月へのイメージを飛び越え、彼個人の解釈と演奏上の欲望によって上塗りされていく。それでいて奇をてらった自分勝手な断絶では決してない。似たような風土に立つスガダイローの所在を明確にたどれる瞬間が、あの夜の鑑賞者には時折訪れたはずだ。それは同時に、怒涛の移ろいの只中で、はっきりと私の所在が立ち現れる瞬間でもあった。

ごくごく弱々しい音も鳴った。うねる塊のような高まりを持つ音も鳴った。ロマンチックな響きを伴う調和も、身体全体でピアノへののしかかり過剰に過剰を重ね絞り出

した異化でさえ、いつしか同様に寂寥と消えていけばかりだ。うんざりするほど鮮烈な八月の猛暑を気がつけば懐かしむように、私たちは幾度季節を越えたとしてもまだ事物のさりぎわに真実慣れることはない。あの夜のどの音もまた、ただ流れて行った。

のぐち たくみ / 美術批評家、詩人 ● 1970年代まで陸路がなかった奥琵琶湖の集落・菅浦へ、永原駅から二時間強かけて歩いた。まるで瀬戸内のような光景や、土足禁止の神社など大変心地良い土地だ。道中すし釣り糸を垂れ、珈琲など淹れるなど贅沢をする。四月二十一日、土曜日。



写真：長谷川健太郎 | ©Velvetsun Products

## EVENT CALENDAR 6/1 ▶ 7/1

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	7/1
fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat	sun
『Tips』展(6/1-7/16)	『Tips』展 【関連企画】アーティストトーク	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』	●【関連企画】パフォーマンス『Prepared for FILM』
●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』
●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』	●【KACセレクション】N//K『風と毛穴 器官と音』
●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	●【明倫WS】きたまり 『きたまり振付の『娘道成寺』を踊る会』	



①池田剛介(Translated Painting(water) #4) ②熊谷卓哉(Gate Guardian)2017 ③小松千倫(グルーパ (ベッドパート))2017 撮影:片山達貴 ④三野新(Prepared for FILM) ⑤宮坂直樹(Les yeux noirs)2017 撮影:守屋友樹

## TOPIC 02

### 『Tips』展

本年度のCo-program カテゴリーB(展覧会事業)は、アーティストの宮坂直樹による企画『Tips』(ティップス)展です。「tip」という英単語には、物事を行う上でのちょっとしたコツ、あるいはヒントといった意味があります。今回の企画で宮坂が注目するのは、作品設置における一見ささやかなコツや技法(Tips)の数々です。

空間構成に関心を持つ宮坂は、展覧会のオープニングパーティで使われるガラスの演出や、ギャラリーのベンチの設計など、現代美術と結びついた場におけるデザインも手がけます。場や空間の中で芸術作品や芸術的な体験がどのように立ち上がってくるのかということについて研究してきた宮坂が、5人のアーティストによる興味深いささやかな技法を紹介し、「Tips」を切り口として新たな視点の提案を試みます。

作品設置のコツとはいったい何でしょうか。いわゆる絵画作品の設置であれば、釘を打って壁に掛けることができ、場合によっては掛けやすいように金具やワイヤーが付属しているでしょう。そういった部品は、作品を物理的に壁に固定するという機能のためにあてがわれ

るのだから、作品そのものの良し悪しや表現される内容には関係がないと考えるのが通常です。では、絵画や彫刻に加えてインスタレーション(=設置)という手法/ジャンルが一般的になった現代アートの文脈において、展示室の中で作品の解釈に勘定されるべきものとするでないものを私たちはどのように区別しているのでしょうか。自転車のタイヤを組み合わせて展示壁を模した池田。台座に見立てた脚立にオブジェを配置した熊谷。梱包材である段ボール箱をインスタレーションに用いた小松。写真を養生テープでディスプレイした三野。電流を供給するコードを造形的に配置した宮坂。過去に様々な技法を用いてきた5人が、今回は「Tips」をテーマに新作に取り組みます。

絵画が「描く芸術」であり彫刻が「彫る芸術」だとすれば、インスタレーションは「設置する芸術」といったところ。何をどうやって設置するかの選択がアーティストの手つきとして意味を持つようになります。そんなときに「Tips」は、機能と表現の両面にまたがり、作品領域の境界で重要な脇役を演じています。

アーティストトークや建築家によるレクチャー等の関連企画も交えて開催します。コツや技法をめぐる意欲的な展覧会に、どうぞご期待ください。

//////////  
 作品の主題や表現内容だけでなく、それらと不可分の関係にある道具や方法にも目を向けた展覧会。アーティスト各々によるアプローチの違いにも注目です。  
 富間芽(アートコーディネーター)

#### 『Tips』展

Co-program カテゴリーB(展覧会事業)採択企画。  
 会期：6月1日(金)～7月16日(月・祝) 10:00～20:00  
 ※7月14日(土)～16日(月・祝)は祇園祭のため17:00に閉館します  
 ※入場無料  
 会場：ギャラリー北・南  
 出展：池田剛介、熊谷卓哉、小松千倫、三野新、宮坂直樹

#### 『関連企画』

##### アーティスト・トーク

日時：6月2日(土)15:00～17:00  
 会場：ミーティングルーム2  
 ゲスト：長谷川新(インディペンデント・キュレーター)

##### パフォーマンス『Prepared for FILM』

日時：6月3日(日)15:00～16:00  
 会場：ギャラリー北  
 出演：三野新

##### レクチャー

日時：6月23日(土)16:00～18:00  
 会場：ミーティングルーム2  
 講師：高濱史子(建築家)

※入場無料・事前申込不要  
 ※イベント情報(P2)もご覧ください

主催：宮坂直樹、京都芸術センター

## TOPIC 03

### アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018：連携 ResArtis/Videobrasil エンゲル・レオナルド

滞在期間：2018年7月3日(火)～9月2日(日) ※予定

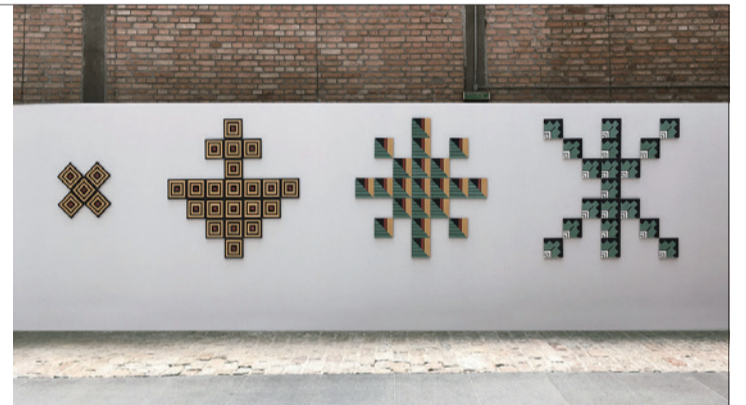
京都芸術センターでは、アーティスト・イン・レジデンスプログラムとして、異なる文化に触れることで新しい芸術表現を生み出そうとする新進のアーティストや芸術分野の研究者等を受け入れ、制作の支援を行っています。ブラジルのコンテンポラリーアート・フェスティバル Sesc\_Videobrasil(セスキ・ビデオブラジル)との連携プログラムでは、昨年度、京都芸術センター賞を受賞したドミニカ共和国出身のエンゲル・レオナルドのアーティスト・イン・レジデンスプログラムを実施します。

Sesc\_Videobrasilとは、サンパウロで開催されるコンテンポラリーアート・フェスティバルです。これまで第三世界や発展途上国とされてきた国々や地域を、「グローバルサウス」という文化、経済、政治を横断する新たな枠組みから捉えなおし、それら地域の芸術を紹介することをミッションとしています。前身となったフェスティバルを含めると30年以上にわたって、それらの地域のアーティストやキュレーター、研究者によって展開されてきたプラットフォームは、従来、注目される機会の少なかったグローバルサウスのアートシーンを発信する重要な場となっています。本年度の招へい作家レオナルドは、ドミニカ共和国を拠点に、

世界各地で作品を発表するアーティストです。カリブの気候、自然、建築、伝統工芸、ポップカルチャーをモチーフとし、彫刻やインスタレーション、レディメイドといった多様なメディアによって、旧植民地社会を取り巻く視覚文化を独自に解釈しています。

カリブ諸国的な題材というと、どこか私たちとは馴染みが薄いように感じるかもしれません。しかしレオナルドの作品が提示する、固有の文化と、近代化を契機に外部から導入された生活様式や社会制度とのちぐはぐな交雑状態は、日本に暮らす私たちにとっても無縁ではありません。約2ヶ月の滞りでレオナルドがどのような視点から日本を捉えるのか、それは私たちにとっても今日の社会を省みるきっかけとなることでしょう。

//////////  
 7月に来日予定のレオナルドは、目下、ブラジルでのレジデンスプログラムに参加中。遠く離れた土地からやって来るアーティストにとって初めての京都滞在はどのようなものになるのでしょうか。アーティスト・イン・レジデンスという作品やリサーチにばかり注目してしまいがちですが、地域の方々と交流する機会づくりにも取り組みたいと思います。  
 松井正(アートコーディネーター)



エンゲル・レオナルド (Pisos) 2017

#### Profile

##### Engel Leonardo (エンゲル・レオナルド)

1977年ドミニカ共和国バニ出身、サントドミンゴ在住。サントドミンゴ自治大学(ドミニカ共和国)芸術学部卒業。彫刻、インスタレーション、サイトスペシフィックな環境への介入やレディメイドなど様々なメディアを用いて作品を制作する。



私にとって2ヶ月にわたる暑く湿度の高い京都の夏は、伝統的な建築や工芸について静かに内省する時間となるでしょう。代々受け継がれる伝統工芸は、京都の大切な文化であり歴史です。今回の滞在では美術館を訪れたり、文献を調べたり、実物を手に取って観察することで、技術や素材への理解を深めたいと思います。  
 エンゲル・レオナルド

#### 友の会・協賛会のご案内

京都芸術センターは新しい芸術振興の拠点として、2000年4月に誕生しました。以来、伝統芸術と現代アート、芸術と学術、芸術と産業等の諸ジャンルが交差し、新しい私たちの芸術が生まれる場となるため、様々な試みを行ってきました。芸術文化の情報を収集・発信し、また国内外の芸術家と市民が交流する場となる事業も展開しています。このような事業をさらに拡充するためには、皆様のご理解とご協力は欠かすことができません。皆様からお寄せいただきます会費・協賛金は、京都芸術センターの活動をより魅力的なものとするために活用させていただきます。京都の新しい文化芸術を育てるサポーターとして、ぜひご入会ください。  
 ※申込方法等、詳細は京都芸術センターウェブサイトをご覧ください

現在、次の皆様方に会員としてご協力いただいております。心より御礼申し上げます。(50音順・敬称略)

#### 京都芸術センター「友の会」

《団体・法人会員》学校法人大和学園、京都商工会議所女性会、京都中央信用金庫、公立大学法人京都市立芸術大学、国際ソロプチミスト京都、成安造形大学(7件)  
 《個人会員》伊藤慶英、石田洋也、尾岡吉重、加藤明子、熊谷壽美子、神保泰宏、西智也、西村由美、野口久菜、長谷川昌史、服部八重子、藤田裕之、宮永東山、村上良子、山崎弥生(26件)  
 《学生会員》田中弘子(1件)

#### 京都芸術センター「協賛会」

《団体・法人会員》株式会社トーエ、京都信用金庫、大松株式会社(3件)  
 《個人会員》(2件)

2018年4月30日現在(一部非公開)

Since 1971  
**MAEDA'S COFFEE**  
 KYOTO ART CENTER 1F  
 MUROMACHI, TAKOYAKUSHI  
 NAKAGYOKU, KYOTO  
 TEL:075-221-2224  
 10:00～21:30 everyday

感覚のあそび場  
 An Imaginative Playground for the Senses  
 岩崎貴宏 × 久門剛史  
 夏休み企画展『感覚のあそび場—岩崎貴宏×久門剛史』  
 2016年7月26日～9月11日  
 展覧会カタログ 定価 500円(税込)  
 京都芸術センター窓口、もしくは下記ウェブサイトよりご注文いただけます。  
<http://www.kac.or.jp/shop/>

#### KYOTO ART CENTER 京都芸術センター



#### 交通案内

○市営地下鉄烏丸線「四条」駅/  
 阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。  
 ○市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

#### 開館時間

○ギャラリー・図書室・情報コーナー ..... 10:00～20:00  
 談話室・チケット窓口 ..... 10:00～21:30  
 ○カフェ ..... 10:00～21:30  
 ○制作室、事務室 ..... 10:00～22:00

#### 休館日

12月28日から1月4日

〒604-8156  
 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2  
 TEL : 075-213-1000 FAX : 075-213-1004  
 E-mail : info@kac.or.jp URL : http://www.kac.or.jp/  
 twitter : @kyoto\_artcenter  
 http://www.facebook.com/kyotoartcenter

